

1. 学校教育目標
いきいき久間っ子の育成

2. 学校経営ビジョン		
めざす学校像	めざす教師像	めざす児童生徒像
○学びと活気に満ちた温もりのある学校 ○地域とともに育む学校 ○歓声のひびく学校	○一人ひとりの子どもを大切に、向き合う教師 ○向上心を持ち、チーム久間の結束力を高める教師集団	○くま:工夫して学ぶ子 … ・自分で考える子ども ・自分で創り出す子ども ・進んで活動する子ども ○つ:強くて逞しい子 … ・元気で健康な子ども ・基本的な生活習慣が身についた子ども ・ねばり強い子ども ○こ:心やさしい子 … ・思いやるのある子ども ・支え合う子ども ・生命を尊重する子ども ・地域を愛する子ども

3. 本年度の重点目標	4. 前年度の成果と課題
<p>①「学力の向上」…工夫して学ぶ子プロジェクト ○獲得した知識・技能を活用し、表現する力の育成(算数科を通して) ○ICT活用による授業実践の積み上げ</p> <p>②「運動への親しみ」…強くて逞しい子プロジェクト ○どの子どもその運動のもっている特性(楽しさ)に触れることができる教科体育の授業促進</p> <p>③「道徳教育の推進」「地域連携の促進」…心やさしい子プロジェクト ○人権教育とリンクした道徳教育の授業実践</p> <p>④地域人材、地域素材を生かした実践の充実 ○久間コミュニティと連携した授業・活動の充実</p>	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、本年度も3つのプロジェクト構成で運用した。学校目標である「工夫して学ぶ子」「強くて逞しい子」「心やさしい子」育成のため、それぞれの取り組みを、これらの言葉の3つのプロジェクトに担担し、計画を立て、実践は全職員で取り組んできた。中間評価を7月に行ったので、実効的なフィードバックができた。また、2学期の始業式では、各プロジェクトから子どもたちにも取り組みのアピールを行い、学校全体で取り組む体制ができてきている。 ・校内研修では、算数科の研究に取り組み、4年間が経過した。ICT活用教育を絡めて、特にノート指導など書く活動に焦点を当てた上で、基礎的な学習習慣の土台を基に、自分の考えを表現し、伝え合う子どもの育成に取り組み、活用力の育成をねらった校内研究が、ずいぶん前進してきた。 ・小中連携教育に関する職員の意識も高まってきており、引き続き、授業等に関連づけながら取り組んでいきたい。 ・地域連携教育面でも、本年度はずいぶん進展が見られた。久間コミュニティと連携した地域連携のシステムが軌道に乗って来て、協力をしていた地域の方々はずいぶん増えてきた。さらに、久間コミュニティとの連携活動計画を学校教育計画とリンクさせ、確実に位置づけたことが功を奏した。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板導入に向けて、ICT活用教育に関する校内研修の機会を設定し、電子黒板を全職員で積極的に使うことができるような研修を深めていきたい。 ・学校HPを充実させたり、学校便り、プロジェクト便り、学級便り等々で学校の様子を知らせたりして、学校運営に関する理解を求めていきたい。

5. 総括表

① 「工夫して学ぶ子」育成に向け、自分で考え創り出す活動の実践

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	基礎学力の向上	・基礎学力の向上・定着を図る。	・計算フェスタ、漢字フェスタを行い、基礎学力の定着を図る。 ・各学期に「久間っ子寺子屋」を開き、個別指導を行うことで学力の向上を図る。 ・毎週火曜日の朝の時間に「すくすくタイム」を実施し、国語・算数の力を定着させる。
		読書活動の充実	・読書が好きと感じる児童を80%以上にする。	・朝の時間に読書タイムを行い、静かな授業の始まりを迎える。 ・週末読書や読書回覧板に取り組み、家庭での読書の習慣化を図る。 ・図書館祭りや読み聞かせを実施する。
		家庭学習習慣の確立	・家庭学習に取り組む方法が分かり、自ら家庭学習に取り組めると回答する児童を80%以上にする。	・家庭学習チェックシートに取り組むことで、家庭学習指導の徹底、学習準備の徹底や学習習慣の確立を図る。 ・家庭学習の手引きを配布し、学年に応じた学習時間や内容の充実を図る。 ・家庭学習(自学)ノートコンテストを実施し、更なる内容の充実を図る。
		獲得した知識・技能を活用し、表現する力の育成	・自分の考えをノートにまとめたり、発表したりすることができる児童を80%以上にする。	・校内研修の充実を図る。 ・自分の考えをまとめる時間や伝え合う時間を充実させる。
	●ICT活用教育の推進	ICT活用教育の推進	・ICT活用教育の現状を知る。 ・本年度中に1回以上は、ICTを活用した授業を行う。	・電子黒板やICT機器等についての校内研修会を行う。 ・ICTを活用した教育の研修会参加や実践事例調査を行う。
○子どもの活動づくり	児童会活動の工夫	・児童集会、委員会活動、代表委員会で「責任を持って自分の役割を果たすことができた」と回答する児童を70%以上にする。	・計画的、自主的な児童集会や委員会活動を実施する。 ・代表委員会を実施し、一人一人が楽しい学校生活にしようという意識をもたせる。	
	学級活動の充実	・係活動や当番(日直・掃除・給食)活動で「責任を持って自分の役割を果たしている」と回答する児童を70%以上にする。	・学級において、仕事を担う意義を理解させ、計画・実践・ふり返りの時間を保障し、活動の支援や助言を行う。	

② 「強くて逞しい子」育成に向け、進んで運動に親しむ活動の実践

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	望ましい生活習慣の形成	・毎日必ず朝食をとる児童100%を目指す。 ・目標の就寝時刻に寝る児童を90%以上にする。	・毎月、保健だより・食育だよりを発行し病気の予防法や食事の大切さを保護者に伝える。 ・朝食をバランスよく食べることや睡眠の大切さを保護者や児童に伝える。 ・毎朝の健康観察時に児童の就寝時刻を調べる。 ・長期休業明けに生活習慣チェックシートを配布し、生活習慣を見直す機会を設ける。
		運動習慣の定着化	・屋外に外に出てよく遊ぶ児童を85%以上にする。	・いろいろな運動を紹介し、児童に奨励する。(縦割り共遊、がんばるマラソン、久間リンピックチャレンジランド) ・外遊びを奨励する。(前期は学級で、後期は全校的取り組みを行うようにさせる。) ・天気の良い日は外で遊ぶように放送で呼びかける。

	○子どもの活動づくり	縦割り活動・クラブ活動の充実	・縦割り活動で「他の学年の人と楽しく活動できた」と回答する児童を70%以上にする。 ・クラブ活動で「他の学年の人と協力して活動できた」と回答する児童を70%以上にする。	・異学年で共通の興味・関心を追求させながら、活動計画や準備を事前に知らせたり、活動中の進行等をしたりする自主的な活動の場を保障する。 ・異学年で交流する楽しさを味わえる、場と時間を保障する。
--	------------	----------------	---	--

③「心やさしい子」育成に向け、人の気持ちを考える活動の実践

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	道徳教育の推進 人権・同和教育の充実	・年1回以上、道徳の授業を公開する。(6月の授業参観「ふれあい道徳」) ・6月、12月に人権集会を2回実施し、人権標語を募集する。	・道徳の教科書を活用する。 ・「心やさしい子」プロジェクトからふれあい道徳について提案する。 ・いじめのない学校づくりに向けて、情報発信をする。
		特別支援体制の確立	・支援を必要とする児童を把握し、個別の支援計画を作成する。 ・特別支援教育について理解し、取り組んでいると答える職員を80%以上にする。	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・特別支援教育コーディネーターを中心とした部会を定期的に開催する。 ・SC、特別支援学校等と連携し、支援・指導方法の研修をする。
		生徒指導の充実	・人の気持ちを考えることができると回答できる児童、90%以上をめざす。 ・よく働くことができた回答できる児童、90%以上をめざす。 ・あいさつの評価が、児童・保護者アンケートで90%以上をめざす。	・挨拶、そうじ、思いやりの3点について月ごとに具体的なめあてを設定し、プロジェクト部会を中心に達成状況を評価しながら年間を通して学年に応じた指導を行う。
		教育相談の充実	・気になる子の共通理解、支援の在り方の充実を図る。	・毎月の職員会議で支援の必要な児童の実態について情報交換し、支援方法の検討をする。 ・ハイパーQUを使い、児童の実態把握を行う。
		安全な学校づくり	・児童のアンケートで登下校の際、安全に気がつけている児童が90%以上をめざす。 ・学校の決まりを守って安全に生活できる児童、90%以上をめざす。 ・保護者・教職員の90%以上が、学校の安全に対する取り組みを評価する。	・一年生の交通教室・三年生の自転車教室を関係機関の協力を得て行う。 ・児童に分かりやすい安全指導・清掃指導を行う。 ・毎月始めに、全校一斉の安全点検を行う。 ・年3回の避難訓練を行う。 ・PTA、地域、関係団体と連携した安全確保の体制を構築する。
●いじめ問題への対応	・いじめのない学校づくり	・児童にアンケートを行うことにより、いじめを許さない意識付けを図る。	・児童のアンケートを年2回実施する。(7・12月) ・児童のアンケートを基に児童との面談を実施し、いじめの早期発見、よりよい解決に努める。	

④保護者・地域との連携を深めるコミュニティー活用の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○保護者・地域との連携	保護者・地域との連携とコミュニティーによる学習支援体制づくり	・保護者の授業参観率を80%以上にする。 ・コミュニティーによる学習支援体制を活用した授業や活動を実施する。	・学校だよりやHP等で早めに授業参観日や懇談日を知らせ、参加しやすいようにする。 ・各教科や総合的な学習の時間における年間計画を早めに作成し、今年度から発足した学校運営協議会の活用し、コミュニティーと連携強化を図りながら、見通しを持った運用を行う。

本年度の重点項目に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	本年度の学校目標、重点目標の周知 職員の学校運営への参画	・保護者に周知し、おおむね知っている人が90%以上になるようにする。 ・学校運営に参画しているという意識が持てたと答える職員を90%以上にする。	・学校だより、PTA総会、学級懇談会等で周知し、具体的な取組を説明する。 ・各プロジェクトチームで評価項目・方策を作成・実践し、職員の参画意識を高める。
教育活動	○小中連携教育	小中連携教育の推進	・9年間を見通した基本的な生活習慣、及び、学習習慣の確立を推進する。	・小中学校の生徒指導方針の情報交換を行う。 ・小中一貫が可能な授業規律の共通理解を行う。 ・小中職員相互の授業交流(授業参観・出前授業)を行う。
特定課題	●小学校低学年の学習環境の改善充実	学習習慣や生活習慣の確立	・話を最後まで静かに聞くことができる児童を80%以上にする。 ・学用品の忘れ物がない児童を80%以上にする。	・日々の授業で話を聞く態度について、随時指導をする。 ・自分のことが相手に伝えられるように話し方の指導をする。 ・「べんきょうのやくそく」を配布し、家庭学習の習慣化を図る。 ・「家庭学習チェックシート」を実施し、家庭と連携を図りながら学習習慣や生活習慣を確立させる。 ・学用品の忘れ物については、個別に指導し、家庭との連携を図る。

●は共通評価項目、○は独自評価項目